

八木健の川柳アート

36

常識的なコメントを否定する

例えば、女子マラソンで惨敗の高橋尚子を「へこたれないのがいい」とか「次への挑戦をぞひ」とプラス志向でコメントするのが常識。自分の心の中の「イジワル」を覗いてみよう。拙作……。

失速者だけが目立った女子マラソン
弁舌は快走高橋尚子さん

特選

選者・川柳アート
八木健

〔月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者〕



金子 亶 (東温市)

たらいまわしを覚悟して乗る救急車

新人医師の研修は大病院でなくてもできることになって、大病院の医師が減った。そこで、大学は地域の病院に派遣していた医師を引き揚げた。その結果、医師不足で地域医療は崩壊した。

佳作



松山 仙彦 (松山市)

評論家だけで内閣造ったら

「小泉劇場が懐かしいね」
「あれは雰囲気だけでしたが」
「福田さんはつまらん」
「橋下知事のように失言すればいいのよ」



丸山由紀子 (宇和島市)

捨てきれぬ子のお古着て若返る

子の成長に親の意識がついてゆけない。脱ぎ捨てた服を親が着るのは子離れができぬ証拠とも。なぬ、「ケチなだけ」でしたか。



井上みどり (松山市)

子どもの手が離れたら親の手が待っている
結局ワタクシは損な役回り。好きでもない男と結婚して一生懸命に家を守って、離婚もできぬまま死んでゆく。誰か……、一緒に蒸発して！



大政 利雄 (松前町)

霜焼にならずにすんだ洗濯機
洗濯機、掃除機、炊飯器の「スリーエス」は女性を家事から解放したが、洗濯機はしもやけ対策にもなったんだね。その結果、日本人女性が「怠け癖」をえ心得。

古今の名句



麻生 葭乃

飲んで欲しやめても欲しい酒を酌ぎ
飲んで饒舌になるあなたが好き。でもからだに毒だからほどほどにしてね、とやさしい。同じく川柳作家の麻生路郎との間に九人の子をもうけた。昭和五十六年に八十九歳で死去。

今月の八木健



暗いうちから出歩く船を撥ねちゃった
イージス艦と漁船の衝突事故は、まだ暗いうちに出歩いて車に撥ねられる老人の死亡事故を思い起こさせる。交通事故と同じく清徳丸にも責任の一端はある。

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!



「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。